

株式会社城洋

成長ステージ段階で要職に外部人材を登用 経営力と外部人材活用を成長の推進力に

事業内容

材料調達から金属加工まで自社一貫生産体制、シリンダーメーカーとしての地位を確立 創業50周年を迎え、次世代への新たな挑戦

1965年(昭和40年)に機械部品製造業として創業。神戸製鋼所の協力工場となつてからは業務を拡大し、現在ではシリンダーメーカーとしての地位を確立している。主力となる射出成型機用のシリンダーは、高耐蝕・高耐磨・長寿命であり、材料調達から金属加工までを自社で一貫してできる体制を整えている。そのほか、特殊合金の技術力を活かした各種産業機械などの部品の製造も行っており、量産品から単品受注までバランス良く対応できている。

また、新規事業も精力的に取り組んでおり、姫路地域でいち早く太陽光発電による売電事業に参入。自社のメガ

ソーラー発電所も有する。近年においては、JISQ9100(航空宇宙産業)を取得し、航空宇宙産業分野への本格進出もすすめている。会社の未来を見据えて、日々事業領域を拡大させている。



高耐蝕・高耐磨・長寿命のシリンダー

外部人材活用・人材投資に注力した背景

事業領域が拡大する中で要となる人材を採用 外部企業との関係構築に注力

従来は、大手企業の下請仕事を中心であったが、2000年頃を境として、独自製品を自社で作りに上げることでメーカーへと転換することができた。供給体制を整えるべく、win-winの関係を保てるパートナー企業探しを進めた。それと同時に、得意先の分散を図るべく事業領域の拡大も進めた。

しかしながら、業績や事業領域が日々拡大する中では、代表一人ではマンパワーにも限界があることを痛感した。外部の人材を獲得しなければいつまでも社長が一人四役、五役でマネジメントが回しきれず、加速的に事業を拡大することが難しくなっていた。同社では、財務・経理、労務・人事に長けた人材を外部から引き込み、代表では対応しきれない企業の守りの部分を任せることとした。特に、財務・経理の責任者には銀行との交渉含めた資金調達戦略とその実行を一任し、良質な資金を調達してもらえるように転換できた。

外部からの人材を雇用し、時間的に余裕ができた代表が注力したのは、自社の取引先との関係性・ネットワーク強化であった。より付加価値の高い仕事がもらえる様に、パートナーとして良い製品を共に製造し続けられるような関係を目指したいということを代表が率先して得意先を回り力説したという。自社の営業マンに対しても、得意先とのあるべき関係を絶えず説明した。

過年度においては、上述のように代表自らが語り、人材育成を行うことが多かったが、現在は外部人材である顧問やコンサルタントの力も借りている。自社で行った人材教育の成果を確認する際に外部の視点からアドバイスももらっている。

株式会社城洋

〒672-8022 兵庫県姫路市白浜町宇佐崎南1-68-1
TEL: 079-245-0598 FAX: 079-246-3029
<http://www.jys-joyo.co.jp>

〈代表者名〉 角田 城治
〈創業年月〉 昭和40年8月
〈資本金〉 36,000千円
〈従業員〉 62人
〈業種〉 機械部品製造

外部人材活用の成果と今後の展開

重要な仕事をスペシャリスト人材に移管 成長段階で外部人材の力を推進力に

下請中心の仕事からメーカーへと転換し、事業領域の拡大を図る中で、財務・経理、人事・労務のスペシャリストを外部から招くことで、大きな推進力を得ることができた。事業を推進していくための原資を銀行との交渉の末に獲得できる人材を確保できたことには大きな意味と成果があった。

外部人材を上手く自社に取り込み、代表が行っていた仕事をスペシャリストに移管することができ、捻出できた時間を使って代表が最も重要だと感じていた得意先との関係構築(関係改善)も進められた。成長途中にある中小企業では、代表が営業・経理・技術・製造・人事までを全て1人でやっていた場合も少なくないが、同社では成長段階(ターニングポイント)で外部人材を上手く活用し分業体制をとることで成長につなげることができた。

人材育成の面では、外部人材である顧問や大企業のOB人材、マネジメントシステム構築、ISO認証取得サポートを行うコンサルタントの力を状況に応じて使い分けることができています。特に、最初から最後までコンサルタントなどの外部人材に頼るというわけではなく、自社でできるところまで行い、その到達点を外部のコンサルタントに確認・評価してもらっている。自社で行うことで、最初はわからないかもしれないが、自社で考える力やノウハウの蓄積が期待できる。自社で行う部分と外部に任せる部分の線引きを行い、効率的な外部人材の活用を意識している。



城洋姫路北太陽光発電所(メガソーラー)

近時の動きとしては、これまで航空宇宙産業分野への部品供給を目指して取り組んできた甲斐もあり、同分野への部品供給が開始された。今後は、航空宇宙産業分野および主力製品であるシリンダーの受注の拡大も見込まれるため、設備投資も積極的に行っていく。

海外も含めて、どこでどういった事業を進めていくのかがいいか検討を重ねた結果、現時点では国内でものづくりに注力していくという方針である。ロボットやマテハン、IoTといった最新設備を導入することで、供給責任を果たしていくのと同時により魅力のある選ばれる会社へと成長していければと考えている。



推進軸・中間軸・クランク軸の結合用固定ボルト



株式会社城洋本社外観(兵庫県姫路市)